

総合工学委員会原子力安全に関する分科会
福島第一原発事故調査に関する小委員会
第24期・第12回 議事録

令和1年10月7日
作成 澤田 隆

1. 日時 令和1年8月29日（木）14:00～16:00
2. 場所 東京大学工学部8号館2階会議室
3. 出席者 松岡委員長、越塚、白鳥、関村、成合、宮野、吉田、澤田幹事（柘植、中村、矢川、山本欠席）
4. 配付資料
 - 資料1 前回議事録案
 - 資料2-1 島崎先生との議論メモ
 - 資料2-2 島崎先生との議論メモ（島崎先生の修正理由コメント版）
 - 資料3 福島第一原子力発電所事故直前までにおける地震学の知見と防災への反映状況（案）
 - 資料4-1 提言 新知見への取り組み強化について
 - 資料4-2 コメント一覧
 - 資料5-1 「原子力規制の課題とあるべき姿」（提言案）
5. 議事
 - 1) 前回議事録の確認（資料1）
 - ◎ 1文字修正の上、承認された。
 - 2) 島崎先生との議論メモ（資料2-1、2-2）の議論
 - ◎ 島崎先生が理由を説明した資料が資料2-2、それを反映した版が資料2-1である。
 - ◎ ほぼ同じことが雑誌「科学」に掲載されているので、引用する場合にはそちらを引用する。
 - ◎ 金森論文の扱い、位置づけが議論となった。
 - 3) 福島第一原子力発電所事故直前までにおける地震学の知見と防災への反映状況（案）（資料3）および提言 新知見への取り組み強化について（資料4-1、4-2）
 - ◎ 種々議論があったが、これまで一般論として普遍的な提言をまとめようとしてきたが、それは難しいので原子力（安全）についての提言としてまとめる方が良いのではとの意見が大勢を占めた。一般論としてまとめるべきとの意見の委員が本日は出席していないため、後日再度議論することとした。
 - ◎ 主な論点は下記の通り。

- 地震・津波に対する事故前の見方と事故後の見方・見解とは明確に分けるべき。事故後に行われた説明は記載すべきではないのではないか？
 - 事業者・規制側・学会ともに見逃した点が重要ではないか？
 - 中央防災会議の「③大きな地震の発生が確認されていない領域」は対策をしないという考え方がおかしいのではないか？
 - 「新知見」の定義が重要。
 - 地震学（科学）、地震工学、原子力安全で考え方、不確かさの扱い方等が全く異なるので、このままでは議論が収束しないのではないか？ それぞれの分野で新知見をどうすべきか考えるべきではないか？
 - 提言する相手を誰にするかを考えるべきではないか？
 - データ→情報→知識→知恵という構造を考える必要がある。
- 4) 「原子力規制の課題とあるべき姿」（提言案）（資料5-1）
- ◎ 規制庁と話をするという件は、現状進捗していない。
 - ◎ 7頁以下を付録にした。
 - ◎ コメント等があれば関村委員に連絡する。
- 5) 次回 2019年9月27日（金）13：30～15：30
次々回 2019年10月23日（水）15：00～17：00

以上